

▼語釈▲

- ① 遣はず(二〇・三) 〓派遣なさる ② 参る(二〇・三) 〓参上する(謙讓語) ③ 心もとなし(二〇・四) 〓待ち遠しい。じれったい。気がかりだ。 ④ おぼす(二〇・四) 〓お思いになる(「思ふ」の尊敬語) ⑤ あさまし(二〇・九) 〓意外で驚きあきれる ⑥ おぼえ(二一・二) 〓評判
- ※どれも重要古語です。覚えましょう。

▼読解のポイント▲

- 1 この場面に、実際に登場している人は誰ですか。また、主人公と副主人公はそれぞれ誰ですか。
- ※ 主人公はもちろん「小式部内侍」、副主人公は「定頼中納言」ですね。和泉式部は小式部内侍の母、このとき和泉式部は丹後国の国司である夫、藤原保昌に付いて、丹後に滞在していました。

- 2 「定頼中納言たはぶれて」(二〇・二)とあるが、定頼は小式部内侍をどのような歌人だと考えていたのか、簡潔に説明しなさい。

※定頼は「歌よみ」に「とられた〓選ばれた」小式部内侍をからかっているわけですから、歌合わせで立派な歌を詠めるようなすぐれた歌人ではないだろうと、考えています。みくびっていたわけです。

- 3 「丹後へ遣はしける人」(二〇・三)について、誰がどこに何のために(「使いを)遣はし」と定頼は言っているのか。簡

潔に答えなさい。

※小式部内侍が、丹波にいる有名な歌人である母の和泉式部のところに、歌合わせて披露する歌を和泉式部に代作してもらうための使いを出した、と定頼は言っているのです。

4 「①局の前を過ぎられけるを、②御簾よりなからばかり出でて」(二〇・4)の傍線部①②の主語をそれぞれ本文中から抜き出して答えなさい。

※①は定頼中納言、②は小式部内侍。②で小式部内侍が「御簾」から体を半分乗り出しているという描写に注意してください。当時の女性は、絶対に男性に顔をみせませんし、女性の方から男性に近づくなどは非常にはしたくないことです。

5 「直衣の袖をひかへて」(二〇・5)の傍線部の現代語訳を次の中から選びなさい。  
ア ひっかけて イ つかんで ウ 払いのけて エ 引きちぎって

※4の続きですが、もちろん小式部内侍が定頼の袖をつかまえたのです。このような振る舞いを女性は普通しません。このことから、定頼と小式部内侍の関係はとて近しいものだった、つまり、恋人同士だったという説があります。

6 「大江山…」(二〇・6)の歌で、小式部内侍が定頼に伝えたのはどのようなことか。次の空欄に本文中の語句を補いなさい。  
自分が詠む歌は、                    に依頼したものではないということ。

※この話のあらすじがわかった人は間違えませぬ。もちろん「和泉式部」です。

7 「大江山…」(二六六・6)の歌から掛詞を二つ抜き出し、それぞれに掛けられているものを漢字を使って答えなさい。  
・掛詞( )          は( )          行く( )          と( )          生野( )          を掛けている。

・掛詞（ふみ）は（踏み）と（文）を掛けている。

※注を見れば答えられましたね。古文理解には、注を参考にすることが欠かせません。必ず注に目を通してください。また、「掛詞」は和歌の修辞技法の一つです。簡単に言えば同音異義語を使った言葉遊びです。ひとつのことばがふたつの意味を持ちます。

8 「返歌にも及ばず……逃げられけり」（二〇・8）とあるが、誰が、なぜ、そのような行動をとったのか、答えなさい。（読解3）

※定頼の行動だということはいいですね。定頼の言葉「こはいかに。かかるやうやはある。」（これはどうしたことか。こんなことがあるだろうか、いやない）（二〇・9）にまず、注目しましょう。「こ」「かかる」は小式部内侍が「大江山」の歌を読んだことを指します。定頼は「丹後へ遣はしける人は参りたりや」（二〇・3）という問いに、小式部内侍が和歌で返事をするとは、予想していなかったのです。それも非常にできのよい完成された和歌で。

ところで、「やは」の部分で「反語」を表します。疑問が強くなって反語になります。「どうしてくだらうか、いやくではない」と訳します。例「どうして私が不細工だらうか、いやそうではない」。これが反語です。覚えておきましょう。

定頼の気持ちは「これほどの歌、ただいまよみ出だすべし、とは知らざりけるにや」（二一・6）で、作者が代弁しています。訳「これほどのすぐれた歌を、（小式部内侍が）即座に詠むことができるとは（定頼中納言は）こ存じなかったのであるか」。さらに、当時の貴族にとって、和歌を詠みかけられたら、和歌を返す（返歌する）のが礼儀であり習慣であったということを知っておかねばなりません。「返歌にもおよばず」（二〇・10）とあります。定頼は返歌ができなかったので、逃げ出してしまったのです。

まとめると、「定頼が、自分の問いに小式部内侍が巧みな和歌で返事をしてくるとは予想していなかったので、驚きあわててしまい、小式部内侍への返歌が即座にできなかったので」、その場を逃げ出したのです。

9 この出来事によって、小式部内侍が得たものを本文中から三字で抜き出さない。

※意味調べができていれば、わかりますね。「おぼえ」は評判です。このことから、小式部内侍の歌人としての名声が広まっていたということなのです。

### ▼要点の整理▲

次の文の空欄に本文中の語句を補いなさい。

歌人として有名な（①）が夫と丹後に下ったとき、娘の小式部内侍が歌合に参加する（②）に選ばれた。

藤原定頼は、小式部内侍をからかおうと、その（③）の前で、「母に歌の代作を依頼するために（④）へ行かせた人はもう帰ってきましたか」と言ったところ、小式部内侍はすかさず

「大江山を越えて生野へ行く道のりが遠いので、丹後の（⑤）はまだ踏んでみたことがなく、母からの手紙も見えていない」と詠んだので、定頼は、その歌の素晴らしさに驚いて、（⑥）もできず、逃げて行った。これ以来、小式部内侍の評判は高まった。

※要点の整理が本文理解のヒントになったと思います。答え合わせをしてください。

- ①和泉式部 ②歌よみ ③局 ④丹後 ⑤天の橋立 ⑥返歌